

平成 22 年 4 月 13 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007 年度～2009 年度

課題番号：19330195

研究課題名（和文）戦後日本における教育実践の展開過程に関する総合的調査研究

研究課題名（英文）The Study and Investigation of the teachers' practices in postwar Japan

研究代表者 臼井 嘉一（USUI YOSHIKAZU）

国士舘大学・文学部・教授

研究者番号：50151866

研究成果の概要(和文)：本研究は、三つの研究課題—①「日本社会の基本問題」と教育実践・教育理論との関わり、②日本生活教育連盟の「社会科三プラン」の内容と特質、③「日教組教育課程改革試案」と総合学習構想の内容と特質—を設定し、以上の三課題に取り組む日本各地の教育実践の展開過程について七地域（①上越地域、②山形地域、③奥丹後地域、④愛知三河地域、⑤兵庫但馬地域、⑥北海道地域、⑦熊本地域）を事例地として設定しその調査研究を実施した。

以上の三研究課題に取り組む七地域の教育実践過程の総合的調査研究の成果を、第 1 集～第 6 集の資料集として作成し、さらにそれらを踏まえた実践事例の考察を加えた論文集として第 7 集を作成した。

研究成果の概要(英文)：(summary) Our study have 3 themes .

The 1st theme is Curriculum Study to come to grips with fundamental problems in Japan society.

The 2nd theme is the study of three Social Studies Plans presented by 3 groups in the association of Life Education.

The 3rd theme is the study of the Curriculum Plan presented by the Japan Teachers Union.

The products of the study are 6 material pamphlets and 1 monograph pamphlet.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
2008 年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2009 年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
年度			
年度			
総計	14,300,000	4,290,000	18,590,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：地域教育実践、実践の理論化、ライフヒストリー、社会科サークル

## 1. 研究開始当初の背景

教育問題の多様化・深刻化を受け、教育改革の趨勢が強まっている。教育問題と教育改革の理念のあいだに、実践主体としての教師の位置がある。教師の実践力の開発が、教育改革のカギとなる。そのため、教職大学院の制度化や教員免許更新制など、教師の実践力を担保する制度設計が進んでいる。だが、現在、様々な制度的改革の進行が、教室や学校単位の実践を改革するまでの成果となっていない。教育行政改革が教育実践改革に至らないのである。ここに現下の最大の課題が存在する。トップダウンの指示や啓蒙では、教師たちの内発的な実践創造は困難なのである。

一方、戦後日本の教育実践は、ユニークでかつ質的に高水準の成果を構築してきた。戦前の反省をふまえ、また以前の創意的な実践の伝統を継承・発展させ、個人や教育研究団体に学ぶ教師たちが、多様な教育実践の華を咲かせたのである。世界的にも例のないこのような実践の高みは、なぜ可能となったのか。そのような実践を創造した教師たちは、どのような契機で成長していったのか。教育実践を支える教育学はどのような役割を果たしたのか。また、実践の展開を通してどのような教育理論が形成されてきたのか。戦後教育実践にかかる視点から研究の光をあてること、現下の課題である教育実践改革の前進に寄与するものとなる。本研究は、そのような問題関心から出発する。

## 2. 研究の目的

今日、困難を倍加した教育世界の实情に即した臨床的な研究が要請されている。その意味で、教育学研究は、教育実践の方向性や実践を支える理論を探求する課題を自覚すべきである。本研究は、そうした研究の一端を以下のかたちで担うことをめざす。すなわち、戦後、社会科を中心として、創造的な教育実践を展開した実践家たちの営為を追跡し、記録する。あわせて、実践家の資料を収集し、研究材として冊子化し公開する。これらのタスクは、資料の紛失や聞きとり対象の高齢化等のため、緊急な取り組みが要請されるものである。同時に、こうした実践の掘り起こし

作業とともに、そのような実践の根底にある理論、およびその理論を生み出した教育学研究の系譜について探究する。

本研究において、特に留意したい点は、実践家たちの教育的営為を追跡し記録する際、かかる実践において、戦後教育学研究や教育理論がどう関わり、どのように位置づいているのかに着目することである。さらに実践それ自身が戦後教育学研究や教育理論の形成に対していかなる位置と役割を果たしてきたのかにも留意する。すなわち、戦後教育実践史の実践家たちの記録をつくりつつ、そこにおいて達成されている実践と戦後教育学研究や教育理論との関わりを検討し、いわば戦後教育史において、実践アプローチと理論アプローチのダイナミックな関連と相互浸透の過程を分析し検討することをその主要な目的として設定するものである。

## 3. 研究の方法

本研究において、具体的には次のような課題と方法を設定し、研究の成果をまとめる。

### ①戦後教育実践家のモノグラフ作成

新資料の発掘・収集・活用をふまえ、戦後の教育実践家に関する精緻なモノグラフを作成する。ここでは、同時に収集した一次資料を基に研究資料集を作成し公開する。

### ②戦後教育実践の証言集作成

ここでは、教育実践の創造に積極的な役割を果たしてきた研究者への聞き取りを行う。

### ③地方資料の整理と分析

各地域・各分野毎に教育実践の見取り図（概説及び資料文献目録）を作成する。ここでは、いくつかの地域をケーススタディとして先行的に研究するとともに、県段階の研究資料を点検し、地方教育実践の概略を整理する。

### ④教育実践理論の探究

教育学研究と教育実践の関係性に関する研究蓄積を検証し、教育実践理論の生成・展開過程を分析する。ここでは、コアカリキュラム連盟（コア連）から日本生活教育連盟（日生連）への転換過程、海後勝雄を中心とする「教育史研究会」の動向、「全国青年教師連絡協議会（全青教）」の動向、1960年代における日生連を中心とした社会科三プラン、

1970年代における「日教組教育課程改革試案」等の再検討が中心的課題となる。

#### 4. 研究成果

- (1) 渋谷忠男教育実践資料集（第1集）  
全 244 頁
- (2) 戦後社会科教育実践史資料
  - 1 一東京都墨田区立業平小学校の教育実践関係資料、
  - 2 一愛知県三河地区地域教育実践関係資料、
  - 3 一日本生活教育連盟社会科プラン関係資料）全 163 頁
- (3) 山下国幸初期教育実践資料集、  
全 401 頁
- (4) 全国青年教師連絡協議会関係資料、  
全 420 頁
- (5) 山形県及び兵庫県但馬における生活綴方運動調査記録、全 131 頁
- (6) 教育課程改革試案の総合学習関係資料集、全 309 頁
- (7) 論文集「戦後日本における教育実践の展開過程に関する総合的調査研究」、  
全 152 頁

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 11 件）

臼井嘉一、現代の学力問題をどう捉え実践するか、民主主義教育、査読無、21 巻、2009、260-125

臼井嘉一、戦後日本の教育実践の全体像を捉える視点、学校教育研究、査読無、24 巻、2009、241-245

板橋孝幸、小学校低学年の「時刻・時間」学習に関する教育方法論—郷土教育実践における算数科と社会科のクロスカリキュラム—、福島大学総合教育研究センター紀要、査読無、7 号、2009、59-66

梅野正信、地域教育サークルの実践に学ぶ—上越教師の会・江口武正実践の軌跡から—、学校教育研究、査読無、24 巻、2009、246-252

木村博一、社会科教育研究の総括と社会科

教育史研究の展望、社会科教育研究、査読無、107 号、2009、15-26

⑥ 田中武雄、センターつうしん（みやぎ教育文化研究センター編）、査読無、55 巻、2009、20-22

〔学会発表〕（計 7 件）

臼井嘉一、斉藤利彦、和井田清司、梅野正信、戦後日本の教育実践（5）—「全国青年教師連絡協議会」と地域における教育実践の展開、第 68 回日本教育学会大会、2009 年 8 月 28 日、東京大学

武藤拓也、板橋孝幸、前田賢治、戦後日本の教育実践（6）—地域教育実践の事例的研究（京都・北海道を中心に、第 68 回日本教育学会大会、2009 年 8 月 28 日、東京大学

〔図書〕（計 2 件）

田中武雄、教育史料出版会、行為<プラクシス>としての教育—林竹二ののちにくるもの、2010、158 頁

和井田清司、学文社、戦後日本の教育実践—リーディングス田中裕一、2010、243 頁

〔その他〕

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

臼井 嘉一 (USUI YOSHIKAZU)  
国士舘大学・文学部・教授  
研究者番号 50151866

##### (2) 研究分担者

田中 武雄 (TANAKA TAKEO)  
宮城教育大学・教育学部・教授  
研究者番号 30091531

(H20 H21: 連携研究者)

木全 清博 (KIMATA KIYOHIRO)

滋賀大学・教育学部・教授

研究者番号 40142765

(H20 H21 : 連携研究者)

斉藤 利彦 (SAITO TOSHIHIKO)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号 20178495

(H20 H21 : 連携研究者)

和井田 清司 (WAIDA SEIZI)

武蔵大学・人文学部・教授

研究者番号 50345542

梅野 正信 (UMENO MASANOBU)

上越教育大学大学院・学校教育学研究科・教授

研究者番号 50203584

(H20 H21 : 連携研究者)

木村 博一 (KIMURA HIROKAZU)

広島大学大学院・教育学研究科・教授

研究者番号 10186330

(H20 H21 : 連携研究者)

武藤 拓也 (MUTO TAKUYA)

国土館大学・文学部・准教授

研究者番号 50290664

板橋 孝幸 (ITABASHI TAKAYUKI)

福島大学・総合教育研究センター・准教授

研究者番号 00447210

(H20 H21 : 連携研究者)

(3) 連携研究者